

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		実用外国語Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	嵐 洋平						
到達目標							
BJTビジネス日本語能力テスト「J2」取得を目標とした基礎的なビジネス日本語を習得し、実際に使用できる。日本語学校で学んだことから発展し、一ランク上の日本語習得を目指す。							
講義概要							
日本語を第二外国語として学ぶ者向けの講義であり、BJTビジネス日本語能力テスト「J2」取得を将来的な目標に据え、問題を解きながら文法・語彙・ビジネス文書読解・ビジネス会話などを学ぶ。専門学校卒業後、社会に出てから必要となる実践的な日本語を修得するために、時事教材なども使用する。							
学修成果							
日本の企業に入社してから想定できる場面を理解し、文化的背景も学ぶ。適切な言い回しを学ぶことで、実際に入社してから使えるようにする。社内用語などについても適宜紹介していく。							
事前学習							
なし							
事後学習							
学習内容復習							
授業計画							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	日本語レベルチェックテスト①、フィードバック						
第3回	日本語レベルチェックテスト②、フィードバック						
第4回	BJTビジネス日本語能力テスト 会話表現① 基礎的なビジネス会話						
第5回	BJTビジネス日本語能力テスト 会話表現② 敬語の基礎とビジネスでの敬語						
第6回	ビジネス文書読解① 日常的な社内文書やビジネス文書						
第7回	ビジネス文書読解② 日常的な社内文書やビジネス文書						
第8回	BJTビジネス日本語能力テスト 聴読解問題①						
第9回	BJTビジネス日本語能力テスト 聴読解問題②						
第10回	ケーススタディ【依頼】上手な頼み方を身に付ける						
第11回	ケーススタディ【アポイントメント】約束の取り方						
第12回	ケーススタディ【謝罪】場面にあった誤り方						
第13回	ケーススタディ【感謝】特徴的なお礼の言い方						
第14回	前期講義総復習、質問対応、ロールプレイ等						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
指定なし、適宜パワーポイント、プリント等を使用							
参考書							
なし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		実用外国語Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	嵐 洋平						
到達目標							
BJTビジネス日本語能力テスト「J2」取得を目標とした基礎的なビジネス日本語を習得し、実際に使用できる。日本語学校で学んだことから発展し、一ランク上の日本語習得を目指す。							
講義概要							
日本語を第二外国語として学ぶ者向けの講義であり、BJTビジネス日本語能力テスト「J2」取得を将来的な目標に据え、問題を解きながら文法・語彙・ビジネス文書読解・ビジネス会話などを学ぶ。専門学校卒業後、社会に出てから必要となる実践的な日本語を修得するために、適宜時事教材なども使用する。							
学修成果							
日本の企業に入社してから想定できる場面を理解し、文化的背景も学ぶ。適切な言い回しを学ぶことで、実際に入社してから使えるようにする。社内用語などについても適宜紹介していく。							
事前学習							
なし							
事後学習							
学習内容復習							
授業計画							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	日本語レベルチェックテスト【上級編】①、フィードバック						
第3回	日本語レベルチェックテスト【上級編】②、フィードバック						
第4回	時事研究①						
第5回	時事研究②						
第6回	時事研究③						
第7回	ビジネス文書読解【発展】①日常的な社内文書やビジネス文書						
第8回	ビジネス文書読解【発展】②日常的な社内文書やビジネス文書						
第9回	ビジネス文書読解【発展】③日常的な社内文書やビジネス文書						
第10回	ケーススタディ【指示】指示を正しく理解する						
第11回	ケーススタディ【報告】報告・連絡・相談の基本						
第12回	ケーススタディ【許可】許可を求める言い方						
第13回	ケーススタディ【意見交換】会議での意見の述べ方						
第14回	前期講義総復習、質問対応、ロールプレイ等						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
指定なし、適宜パワーポイント、プリント等を使用							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		ビジネス外国語Ⅳ					
副題							
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	松尾悦子						
到達目標							
予備知識として、一般的な企業文化、ビジネス習慣を理解することができる。ビジネス場面で実践的なコミュニケーション能力を高めることができる。最終学年として卒業してすぐに企業に入って困らないように、適切なビジネス用語・文型・語句を理解し自然なやりとりができるようになることを目標とする。							
講義概要							
各課ごとのテーマ(依頼・謝罪・誘いなど)について、外国人材が遭遇しやすい事象をを例にビジネス文化・習慣をまず読解部分で理解し、その後会話編で自然なコミュニケーションができるように口頭練習さらにロールプレイを行う。							
学修成果							
読解部分を読むことで日本人のビジネス習慣を理解することができるようになる。会話練習によって、通常よく使われる表現を使って相手や状況に合わせて、自然なやりとりができる。日本文化と自国の文化の間の習慣、言葉遣い、態度、価値観の違いを理解しそれに配慮した行動をとれるようになる。							
事前学習							
各課の読解部分を読み、文型副詞などの語彙を調べ問題を解いておく。							
事後学習							
教科書に出てくる会話を練習し、滑らかに言えるようにする。							
授業計画							
第1回	この授業のやり方・ビジネス場面でよく使う用語の説明。基礎編「依頼」について文章を読み、ビジネス習慣を学ぶ。						
第2回	応用編「依頼」の場で使用するやり取りを学び練習、ロールプレイを行う。						
第3回	基礎編「アポイントメント」についての文章を読み、ビジネス習慣を理解する。ケーススタディを考える。						
第4回	応用編「アポイント」ので使用するやり取りを学び練習、ロールプレイを行う。						
第5回	基礎編「感謝」についての文章を読み、日本人の習慣を理解する。ケーススタディを考える。						
第6回	応用編「感謝」の場で使用するやり取りを学び練習、ロールプレイを行う。						
第7回	基礎編「謝罪」についての文章を読み、ビジネス習慣を理解する。ケーススタディを考える。						
第8回	応用編「謝罪」の場で使用するやり取りを学び練習、ロールプレイを行う。						
第9回	基礎編「誘う」についての文章を読み、ビジネス習慣を理解する。ケーススタディを考える						
第10回	応用編「誘う」の場で使用するやり取りを学び練習、ロールプレイを行う。						
第11回	基礎編「申し出」についての文章を読み、日本人の習慣を理解する。ケーススタディを考える						
第12回	応用編「申し出」の場で使用するやり取りを学び練習、ロールプレイを行う。						
第13回	基礎編「許可」についての文章を読み、日本人の習慣を理解する。ロールプレイ練習。						
第14回	今までの復習と重要ポイントの確認						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
「外国人のためのケーススタディで学ぶビジネス日本語」 千駄ヶ谷日本語教育研究所著 スリーエーネットワーク							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		ホスピタリティⅠ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	丸山 直美						
到達目標							
・ホスピタリティの意味とその役割を理解することができる。 ・ホスピタリティの価値の重要性を理解することができ、「洞察力、認識力、解決力」がつき理解、判断のコミュニケーションが取れやすくなる。							
講義概要							
現代人に求められる力は、①相互理解力、②コミュニケーション能力 が重要になっています。ホスピタリティの歴史や文化を学び、ルールやマナーなど顧客満足、従業員満足など実践関係を議論します。人間の強みや弱みも理解を深め個人が持っている資質がさらに高まるような人間力と社会人に求められる基礎知識の認識を高めます。							
学習成果							
ホスピタリティについて思考し、理解、判断したことを自分の言葉で表現することができるようになる。就職活動や進学準備（面接等）でどのように相手に話すと好感や相手の気持ちちを察することができ生かすことが社会でできるようになる。社会常識の知識をつける。							
事前学習							
課題の準備をし以前にリサーチをしておく							
事後学習							
授業の内容で感じたこと疑問点をグーグルフォームにて記述し提出をする。							
授業計画							
第1回	ガイダンス 授業の進め方と目標到達点の説明 自己紹介 課題について						
第2回	ホスピタリティの歴史やその文化について学ぶ。社会常識を学ぶ						
第3回	なぜ「ホスピタリティ」を学ぶのか。ホスピタリティを進学・就職活動にどのように活かすかをそれぞれ発表する						
第4回	日本の「ホスピタリティ」を学ぶNo.1。和敬清寂 茶道の心配りを学びコミュニケーションの重要性を理解する						
第5回	日本の「ホスピタリティ」を学ぶNo.2。言葉のホスピタリティ『クッション言葉』とは相手を気遣う日本独特な言い回し。						
第6回	社会常識一般論を復習：色々なホテルのトップの人物						
第7回	ホスピタリティ実践事例「スターバックス」から学ぶ						
第8回	ホスピタリティが今後必要、需要性の高い産業・業界を調べ発表をする No.1						
第9回	ホスピタリティが今後必要、需要性の高い産業・業界を調べ発表をする No.2						
第10回	ホテルスタッフ・病院スタッフのホスピタリティが求められることは。実践事例						
第11回	ホスピタリティを感じる「伝え方」『言い換え』悪気のない一言 ロールプレイ						
第12回	思いやりを感じる言い伝え方（ビジネス編） ロールプレイ						
第13回	色々な接客事例をもとに各自の意見感想を発表する 発表の仕方 質問の仕方も学ぶ						
第14回	期末試験対策 重要ポイントの復習						
第15回	前期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		70	定期試験は記述40％選択60％				
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		30	特に授業への参加度や思いやり、積極的な行動を評価				
その他							
教科書							
特に定めず授業中に指示や資料を配布します。□							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		外国語会話Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
ビジネスニュースを通じて、実践的な聴読解力を高めるとともに、複雑な情報を正しく理解し、整理し、発信できる力を育てます。また、日本社会で必要とされる情報収集力・分析力・表現力を身につけることで、自立した学習者・社会人としての基礎力を養います。ニュースの内容と自身の既有知識を結び付け、世の中を捉える力を身に付けます。							
講義概要							
本授業では、ビジネス関連のニュースを教材とし、日本語の聴読力を高めることを目的とします。ニュースの映像を視聴した後要約を行い、詳細な理解を深めます。前期で培った情報処理能力を生かし、国内・国外の状況とニュースの内容を照らし合わせ、検討すべき課題を見つけ出し、クラス内で話し合います。また、引き続きニュースの音読を通し、日本語の自然な発音に近づく訓練も行います。							
学修成果							
ニュースの聞き取りを通じて要点を的確に捉え、複雑な情報を整理する能力を養います。さらに、ニュース内容を要約し、自らの意見や考察を明確に発信できるようになります。また、世の中の課題を見つけ出し、自分事として考える素養を身に付けます。さらに日本語の発音が改善されます。							
事前学習							
さまざまなニュースにアンテナを張っておく・様々な分野において既有知識を増やす							
事後学習							
ニュース音読・わからない言葉を調べる・関連ニュースを見る課題について調べる							
授業計画							
第1回	ガイダンス・求められる姿勢について						
第2回	発音練習 ニュース① 視聴・要約・課題設定						
第3回	発音練習 ニュース① 視聴・調べたことの共有・まとめ						
第4回	発音練習 ニュース② 視聴・要約・課題設定						
第5回	発音練習 ニュース② 視聴・調べたことの共有・まとめ						
第6回	発音練習 ニュース③ 視聴・要約・課題設定						
第7回	発音練習 ニュース③ 視聴・調べたことの共有・まとめ						
第8回	発音練習 ニュース④ 視聴・要約・課題設定						
第9回	発音練習 ニュース④ 視聴・調べたことの共有・まとめ						
第10回	発音練習 ニュース⑤ 視聴・要約・課題設定						
第11回	発音練習 ニュース⑤ 視聴・調べたことの共有・まとめ						
第12回	発音練習 ニュース⑥ 視聴・要約・課題設定						
第13回	発音練習 ニュース⑥ 視聴・調べたことの共有・まとめ						
第14回	発音練習 総復習						
第15回	テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
特になし							
参考書							
Webサイトより適宜ニュースを使用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		外国語表現Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	浅野卓夫						
到達目標							
大学レベルの専門的な文章を書くために必要な、論理的思考に基づく表現、文法、作文の基礎知識を習得する。							
講義概要							
論理的な文章の読み書きのしかたがわからないと、大学での勉強や研究、企業での業務に困難を感じることになる。本講義では、論理的思考とは何かを学びながら、作文の練習を積み重ねることで、文章表現の技術を獲得することをめざす。							
学修成果							
大学レベルの専門分野の勉強をするために必要な研究計画書やレポートなどを作成することができるようになる。また、論理的思考に基づくコミュニケーション能力を身につけることができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
各回の学習内容について、実践できるように復習する。60分程度							
授業計画							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	作文の基本1 表記のしかた1						
第3回	作文の基本1 表記のしかた2						
第4回	作文の基本2 文体と書きことば1						
第5回	作文の基本2 文体と書きことば2						
第6回	作文の基本3 段落に分ける						
第7回	作文の基本4 「は」と「が」						
第8回	研究計画書の作成1 テーマを述べる						
第9回	研究計画書の作成2 理由・経過を述べる						
第10回	研究計画書の作成3 定義をする						
第11回	研究計画書の作成4 判明していることを述べる						
第12回	研究計画書の作成5 問題点を述べる						
第13回	研究計画書の作成6 引用する						
第14回	研究計画書を書く						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語②作文編』(アルク、2001年)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		外国語表現IV					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	浅野卓夫						
到達目標							
大学レベルの専門的な文章を書くために必要な、論理的思考に基づく表現、文法、作文の基礎知識を習得する。							
講義概要							
論理的な文章の読み書きのしかたがわからないと、大学での勉強や研究、企業での業務に困難を感じることになる。本講義では、論理的思考とは何かを学びながら、作文の練習を積み重ねることで、文章表現の技術を獲得することをめざす。							
学修成果							
大学レベルの専門分野の研究に関わる論文や研究発表要旨などを作成することができるようになる。また、論理的思考に基づくコミュニケーション能力を身につけることができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
各回の学習内容について、実践できるように復習する。60分程度							
授業計画							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	論文作成の基本1 文字と記号						
第3回	論文作成の基本2 文体と表現						
第4回	課題の提示						
第5回	目的の提示						
第6回	定義と分類						
第7回	図表の提示						
第8回	変化の形容						
第9回	対比と比較						
第10回	原因の考察						
第11回	列挙						
第12回	結論の提示						
第13回	小論文を書く						
第14回	講義の振り返り						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』(アルク、2001年)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		総合外国語Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
受講者が日本語でのビジネス会話に自信を持ち、的確かつ円滑にコミュニケーションを図れるようになることを目指します。また、話し手の意図を正確に理解し、相手との関係を維持しつつ自分の意見や考えを適切に伝える能力を養います。							
講義概要							
本授業では、前期に引き続きビジネスシーンにおける会話を中心に取り組みます。受講者は、さまざまな状況で用いられる会話を聞き、話し手の意図や感情を正しく理解する訓練を行います。社内外の会話における微妙なニュアンスや、礼儀に焦点を当てた上で、相手との関係性を維持するための表現を学びます。課の終わりではロールプレイを実施し、実践につなげます。							
学修成果							
とくにビジネスの場面において、相手が述べた情報を正確に聞き取り、相手の意図や感情を理解したうえで、関係性を維持できるような表現を使用し自分の言いたいことを相手誤解されることなく伝えることができるようになる。							
事前学習							
学習箇所の予習							
事後学習							
学習した表現の復習および実践							
授業計画							
第1回	ガイダンス・受講者アンケート・求められる姿勢について 前期の復習						
第2回	Lesson7 提案① 聞き取り練習Ⅰ-1～2						
第3回	Lesson7 提案② 聞き取り練習Ⅰ-3～聞き取り練習Ⅱ						
第4回	Lesson7 提案③ ポイントリスニング～重要表現						
第5回	Lesson7 提案④ 重要表現～ロールプレイ						
第6回	Lesson8 感想① 聞き取り練習Ⅰ-1～2						
第7回	Lesson8 感想② 聞き取り練習Ⅰ-3～聞き取り練習Ⅱ						
第8回	Lesson8 感想③ ポイントリスニング～重要表現						
第9回	Lesson8 感想④ 重要表現～ロールプレイ						
第10回	Lesson1 伝言 復習 聴解・記述問題						
第11回	Lesson3 許可 復習 聴解・記述問題						
第12回	Lesson5 依頼・指示 復習 聴解・記述問題						
第13回	Lesson7 提案 復習 聴解・記述問題						
第14回	Lesson8 感想 復習 聴解・記述問題 +総まとめ						
第15回	テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
ボイクマン絵子 宮谷敦美 小室リー郁子『新版 聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編』くろしお出版							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年次					
科目名		特別演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	工藤 麻紀子						
到達目標							
数回に渡るグループプレゼンテーションの機会によって、自らの意見を述べる”発表”ではなく、プレゼンの目的を明らかにし、その目的を達成できるプレゼンテーションの実現							
講義概要							
プレゼンテーションの聞き手に、自分が意図する”次の行動”をしてもらうためのプレゼンテーションを理解するために、講義を実施し、ビジネスシーンにおける”良いプレゼン”を理解する。その上でストーリーの組み立て方や情報収集を行い、論理的思を養う方法を理解する。							
学修成果							
聞き手であるクラスメートの評価フィードバックによって、目的が達成できたプレゼンテーションであるかを明確にし、すべてのグループが80%以上が達成のフィードバックを得る。							
事前学習							
講師が授業で示した次回学習内容について予習する。							
事後学習							
各回で学んだことを復習する。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション 過去のプレゼンの振り返り						
第2回	GW①企業説明会(人事部門) 企業選定、構成、内容の確認						
第3回	GW①企業説明会(人事部門) 内容の確認、ストーリーラインの作成、PPT作成						
第4回	発表①企業説明会(人事部門)						
第5回	発表①企業説明会(人事部門) フィードバック						
第6回	GW②企業説明会(営業部門) ①で選定した企業の顧客向け説明会準備						
第7回	GW②企業説明会(営業部門) ①で選定した企業の顧客向け説明会準備						
第8回	発表②企業説明会(営業部門)						
第9回	発表②企業説明会(営業部門) フィードバック						
第10回	GW③企業内提案(販促部門) ①で選定した企業の海外販路を増やすための提案						
第11回	GW③企業内提案(販促部門) ①で選定した企業の海外販路を増やすための提案						
第12回	発表③企業内提案(販促部門)						
第13回	GW③企業内提案(販促部門) フィードバック						
第14回	ふりかえり						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		50					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		50	発表、GW貢献度、課題				
その他		0					
教科書							
参考書							
プレゼンテーションの基本と常識							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		特別演習Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	工藤 麻紀子						
到達目標							
グループプレゼンテーションの実施を通じて、プレゼンの目的を明らかにし、聞き手が、話し手の意図した行動をしようとするような説得力のあるプレゼンテーションを確実に実現。							
講義概要							
前期の応用。プレゼンテーションの聞き手に、自分が意図する”次の行動”をしてもらうためのプレゼンテーションを実施するために、グループワークにてプレストを行い、論理的思考の元、情報を収集し、ストーリー性のあるプレゼンテーションを実施できる様になることを目指す。							
学修成果							
聞き手であるクラスメートの評価フィードバックによって、目的が達成できたプレゼンテーションであるかを明確にし、すべてのグループが90%以上が達成のフィードバックを得る。							
事前学習							
講師が授業で示した次回学習内容について予習する。							
事後学習							
各回で学んだことを復習する。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション　プレゼンテーションの目的のおさらい						
第2回	GW①お客様にTAPS法を用いてビジネス提案しよう 主張したい点の確認						
第3回	GW①お客様にTAPS法を用いてビジネス提案しよう 情報収集、構成の確認						
第4回	発表①お客様にTAPS法を用いてビジネス提案しよう						
第5回	GW①お客様にTAPS法を用いてビジネス提案しよう 評価、フィードバック						
第6回	ブレーンストーミングをしよう テーマをきめよう						
第7回	GW②決定したテーマ 目的の再確認						
第8回	GW②決定したテーマ 主張したい点・その理由の確認、情報収集、構成の確認						
第9回	発表②決定したテーマ						
第10回	GW②決定したテーマ 評価、フィードバック						
第11回	GW③世界情勢・課題について 目的の再確認						
第12回	GW③世界情勢・課題について 主張したい点・その理由の確認、情報収集、構成の確認						
第13回	発表③世界情勢・課題について						
第14回	GW③世界情勢・課題について 評価、フィードバック						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		50					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		50	発表、課題、参加度、グループ貢献度				
その他		0					
教科書							
参考書							
プレゼンテーションの基本と常識							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		外国語演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	嵐 洋平						
到達目標							
①資料の分析・調査・考察能力を育成する。②総合的読解力および論理的思考力を養成する。③日本の思想・文化・社会への理解を深める。④日本語表現力・文法力の向上を図る。							
講義概要							
本講義では読解力向上を主目的とするが、昨今、社会で必要とされる総合読解力の状況を鑑み、各課で提示されたテーマに関わる各種資料(文字・表やグラフ・映像)も併せて提供、各種資料の内容を分析・調査・考察し、それらを総合して多角的に時代を読み込んでいく力を養成する。授業を通して、日本語表現力及び日本語文法力の向上を図る。							
学修成果							
日本語による各種資料を分析、自らも調査、それらの結果を併せて総合的に考察する力がつく。各種日本語読解試験においても、資料読解文などで確実に得点を獲得できるようになる。幅広く豊かな日本語表現力および文法力が身につく。							
事前学習							
講義予習またはタスク作業(30～60分)							
事後学習							
講義復習または自習用課題(30～60分)							
授業計画							
第1回	オリエンテーション 講義目的・進め方、求められる学習姿勢について						
第2回	第1課 漫画・アニメ(1) 本文① 精読および問題演習						
第3回	第1課 漫画・アニメ(2) 本文② 精読および問題演習						
第4回	第1課 漫画・アニメ(3) 資料 分析と考察						
第5回	第2課 恋×AI＝？(1) 本文① 精読および問題演習						
第6回	第2課 恋×AI＝？(2) 本文② 精読および問題演習						
第7回	第2課 恋×AI＝？(3) 資料 分析と考察						
第8回	第3課 見る脳、聞く脳(1) 本文① 精読および問題演習						
第9回	第3課 見る脳、聞く脳(2) 本文② 精読および問題演習						
第10回	第3課 見る脳、聞く脳(3) 資料 分析と考察						
第11回	第4課 外来生物の今(1) 本文① 精読および問題演習						
第12回	第4課 外来生物の今(2) 本文② 精読および問題演習						
第13回	第4課 外来生物の今(3) 資料 分析と考察						
第14回	読解の解法 実用的な文章 ①問題演習 ②解答と解説						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
清水正幸／奥山貴之『日本語学習者のための読解厳選テーマ10[上級]』凡人社							
参考書							
講義の中で適宜提示							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		時事研究Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	町隆美						
到達目標							
経済政策の基礎的な知識を習得し、経済学の基礎的な概念を使いこなして、経済政策上の論点を理解できる。また政府の経済政策について、自ら評価できるようになることが目標である。							
講義概要							
日本経済に関する最新の経済情報と基礎的な経済理論を踏まえながら、日本経済が直面している課題とそれに対処するためのマクロ経済政策を学ぶ。主な内容としては、①政府の役割と経済政策の基本的な考え方、②景気の変動、③財政政策と財政健全化への課題、④中央銀行の役割などを扱う。							
学修成果							
政府と中央銀行である日本銀行が行うマクロ経済政策(財政政策・金融政策)が理解でき、財政政策と金融政策の方法とその目的が説明できる。							
事前学習							
配布資料の重要キーワードを調べてくる							
事後学習							
配布プリントを復習すること							
授業計画							
第1回	貨幣の役割や世界の通貨制度について						
第2回	直接金融と間接金融の仕組みと違いについて						
第3回	銀行の三大業務と信用創造機能について						
第4回	中央銀行とは何か。その役割や機能について						
第5回	中央銀行の行う金融政策の仕組みと役割について						
第6回	通貨供給量と物価との関係について						
第7回	公開市場操作の仕組みと役割について						
第8回	預金準備率操作と公定歩合操作について						
第9回	政策金利とは何か。政策金利と景気との関係について						
第10回	財政とは何か。財政の仕組みと役割について						
第11回	フィスカル・ポリシーの仕組みと役割について						
第12回	ビルト・イン・スタビライザーの仕組みと役割について						
第13回	ポリシー・ミックスの仕組みと役割について						
第14回	日本のプライマリーバランスの現状と課題について						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
講師配布資料							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		時事研究IV					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	町隆美						
到達目標							
本講義では以下の3点、①現代の様々な会社・企業形態、②株式会社の誕生とその特徴、③コーポレート・ガバナンスのあり方を理解することが目的である。							
講義概要							
本講義では、様々な会社形態を学ぶ。とりわけ現代の会社形態の主流となっている「株式会社」の誕生・特徴を理解することが最大の目的である。企業が利潤の最大化という目的を達成する上で株式会社という会社形態がなぜ優れているのか、株式会社の所有と経営の分離などを学び、理解を深めていく。							
学修成果							
様々な会社・企業形態を理解し、それぞれの会社・企業形態が持つ特徴を説明できるようになる。現代の株式会社が持つ優位性が説明できるようになる。							
事前学習							
配布プリントを読むこと							
事後学習							
配布プリントを復習すること							
授業計画							
第1回	経済主体「企業・会計・政府」の役割と国民経済について						
第2回	現代社会の会社企業の諸形態について						
第3回	持分会社(合名・合資・合同)の違いについて						
第4回	株式会社の歴史・誕生とその特徴について						
第5回	株式会社の特徴①無限責任社員と有限責任社員について						
第6回	株式会社の特徴②株式会社の機関について						
第7回	株式会社の特徴③所有と経営の分離について						
第8回	コーポレート・ガバナンス(企業統治) について						
第9回	企業の諸形態 ①コングロマリットについて						
第10回	企業の諸形態 ②多国籍企業について						
第11回	企業の諸形態 ③ベンチャー企業について						
第12回	企業の諸形態 ④アウトソーシング企業について						
第13回	企業の諸形態 ⑤世界のEMS企業について						
第14回	企業の目的や存在意義について						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
講師配布資料							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		マーケティング					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	三田 学						
到達目標							
用語やフレームワークの意味を、体系的に理解できる。活用できる。							
講義概要							
・マーケティングによる、顧客に選ばれ続ける仕組みづくりを考える。 ・用語や理論の度に、質問と演習をおり混ぜる。インタラクティブに、生徒と共に学ぶ。							
学修成果							
製品やサービスの価値を高めるアイデアを、ロジカルに提案できる。 世の中の企業のマーケティングに関心を持ち、推察、吸収できる。							
事前学習							
前回までのふりかえりをする。							
事後学習							
今回の内容と前回までの内容を、つなげて整理する。							
授業計画							
第1回	マーケティング活動は常に循環させる。						
第2回	マーケティングの環境分析＝顧客分析。						
第3回	STP＝セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング。						
第4回	顧客へのメッセージ。マーケティングミックス(4P)。						
第5回	4P①:プロダクト＝製品・サービスを考える。						
第6回	4P②:プライス＝価格政策。						
第7回	4P③:プレイス＝チャネル政策。						
第8回	4P④:プロモーション政策。						
第9回	常に顧客発想で考える。						
第10回	顧客の生涯価値(LTV)。						
第11回	経験価値。モノ消費からコト消費へ。						
第12回	企業実例研究①						
第13回	企業実例研究②						
第14回	マーケティング全般のポイント、おさらい。						
第15回	期末試験。						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
指定せず。事前に授業のテキストをPDFで配布。							
参考書							
「サクッとわかる ビジネス教養 経営学」 池上重輔 新星出版社							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		消費者行動論					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	伊藤 憲彦						
到達目標							
「消費」とは何か、購買プロセスやライフスタイルの変化が与える影響は何かということを事例を用いながら学び、今後、どのようにしてビジネスに活かしていくことができるかを考えることを目標としていく。							
講義概要							
経済が時代とともに変化すると同じように、消費者の心理や行動も変化してきている。本講義では、消費者行動の歴史をもとに、様々なモデルを用いて消費者心理を学んでいく。また、どのように消費者へアプローチしていくか、マーケティングの視点も用いながら理解を深めていく。							
学修成果							
消費者の購買行動を中心に学ぶことで、消費者心理を理解できるようになる。そのため、接客業の仕事に就いた際に顧客視点で物事を考えて行動できるようになる。							
事前学習							
前回の復習							
事後学習							
HP等を使って調べる							
授業計画							
第1回	消費者行動論とは①・消費者行動論の歴史						
第2回	消費者行動論とは②・ELMモデル						
第3回	消費者が行動に至るまでの過程① (AIDMA・AISAS)						
第4回	消費者が行動に至るまでの過程② (AISEAS・SIPS・DUALAISEAS)						
第5回	ケーススタディ①						
第6回	高度経済成長期の消費者行動						
第7回	バブル期前後の消費者行動						
第8回	平成の消費者行動①						
第9回	平成の消費者行動② (コト消費・トキ消費・イミ消費)						
第10回	非計画購買と衝動購買						
第11回	ケーススタディ②						
第12回	ライフサイクルアプローチ・ライフコースアプローチ						
第13回	試験前対策① 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する						
第14回	試験前対策② 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)		30	レポート				
その他							
教科書							
なし							
参考書							
随時配布							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		マーケティング戦略					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	三田 学						
到達目標							
(1)用語や定義:経営・マーケティング戦略の用語や定義に慣れる。(2)フレームワーク:ビジネスフレームワークの「使いどころ」を把握し、実践に使えるよう理解を進める。							
講義概要							
昨年度の「マーケティング」を習得したことを前提に、企業が目的を実現するため必要となる「マーケティング戦略」を学ぶ。ビジネスパーソンとして、経営者による経営戦略から「どのような指針・土台をもとにマーケティングを展開していくか?」をビジネスフレームワークを用いて理解を深める。							
学修成果							
(1)ビジネスにおいてマーケティング＝「部分」理解から、「経営」＝全体・繋がりでの理解が促進(2)スピードが求められるビジネスシーンでの意思決定・行動の最適化ができる。							
事前学習							
必要な時間:15回×10分／日々のニュース(ビジネス・社会)の確認							
事後学習							
必要な時間:15回×15分／共有される講義資料PPTの内容確認(期末試験回は試験内容の振り返り)							
授業計画							
第1回	ガイダンス:(1)講師自己紹介(2)前提条件の共有(3)基礎用語の確認						
第2回	(1)復習(2)基礎用語の確認(3)ビジネス成立の要件(4)マーケティングの必要性／演習						
第3回	(1)復習(2)基礎用語の確認(3)マーケティングの必要性とその背景・原因／演習						
第4回	(1)復習(2)戦略とは(3)戦術とは(4)マーケティング戦略とは／演習						
第5回	(1)復習(2)マーケティング演習および発表						
第6回	(1)復習 (2)ビジネスキャンバスモデル説明／演習						
第7回	(1)復習(2)興味関心ある企業のビジネスモデルキャンバス」の作成演習と発表①						
第8回	(1)復習(2)興味関心ある企業のビジネスモデルキャンバス」の作成演習と発表②						
第9回	(1)復習(2)競合他社のビジネスモデルキャンバス作成／演習						
第10回	(1)復習(2)マーケティング・マーケティング戦略視点での企業研究①／演習						
第11回	(1)復習(2)組織体制とマーケティング機能／演習						
第12回	(1)復習(2)マーケティング・マーケティング戦略視点での企業研究②／演習						
第13回	(1)復習(2)マーケティング・マーケティング戦略での企業研究をふまえた志望動機作成／演習						
第14回	第1回～第13回講義の振り返りと要点の確認						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
翔泳社「ビジネスモデルナビゲーター」							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		経営戦略					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	三田 学						
到達目標							
用語やフレームワークの意味を、体系的に理解できる。活用できる。							
講義概要							
・差別化された戦略は、競争の優位性と利益を生むことを学ぶ。 ・内部/外部環境を的確に分析することで、それは一貫し、マーケティングにつながる。 ・用語や理論の度に、質問と演習をおり混ぜる。インタラクティブに、生徒と共に学ぶ。							
学修成果							
企業のIRや報道を、身近にとらえられる。 将来、ビジネスリーダーとして説明やプレゼンが出来るようになる。							
事前学習							
前回までのふりかえりをする。							
事後学習							
今回の内容と前回までの内容を、つなげて整理する。							
授業計画							
第1回	経営戦略は4つの経営資源を上手に使うこと。顧客に認めてもらえる差別化。						
第2回	経営戦略の構造。事業ドメインの実例。						
第3回	経営戦略策定・実行のプロセス。事業ドメインの特定とPPM。						
第4回	経営環境の把握。外部環境分析ーマクロ環境分析の手法。PEST分析。						
第5回	外部環境分析ーミクロ環境分析の手法。5フォース分析。						
第6回	内部環境分析ーバリューチェーンで付加価値を把握。SWOTで環境分析を俯瞰する。						
第7回	事業戦略の4つの類型。						
第8回	競争戦略①:ポジショニング戦略。						
第9回	競争戦略②:リソース・ベースト・ビュー戦略。競争戦略③:ビジネス生態系戦略。						
第10回	非競争戦略:ブルー・オーシャン戦略。						
第11回	企業の競争ポジション4類型。コラーの競争戦略理論。						
第12回	ブランディングによる企業価値の最大化。						
第13回	内部成長戦略と外部成長戦略。具体例。						
第14回	経営戦略のポイント、おさらい。						
第15回	期末試験。						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
指定せず。事前に授業のテキストをPDFで配布。							
参考書							
「サクッとわかる ビジネス教養 経営学」 池上重輔 新星出版社							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		貿易商業外国語 I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高谷 俊祐						
到達目標							
観光英語検定試験3級合格							
講義概要							
海外から日本へ訪れる訪日外国人観光客は年々増加しており、外国人旅行者と接する機会が広がっています。また旅行業や観光業、小売業を目指す学生においても、英語で接遇する機会は今後益々増えていく事が予想されます。本講義では観光英語検定3級相当の書籍を使用し、観光、旅行のみならずサービス業に従事する際に必要な接遇英語を学習します。							
学修成果							
業界専門用語並びに接遇に必要な英語を使用する事が出来る							
事前学習							
各ユニットに必要な語彙を学習する							
事後学習							
学習した語彙を復習すると共に会話文の音読練習を行う							
授業計画							
第1回	1. Transportation from the Airport ro the Hotel						
第2回	2. At a Hotel: Explaining a Key Card						
第3回	3. At a Hotel: Departure by taxi						
第4回	4. Greeting a Guest at the Ryokan						
第5回	5. How to use a Ryokan Bath						
第6回	6. Dinner Service at the Ryokan						
第7回	7. Japanese Restaurant						
第8回	8. Gifts and Souvenirs						
第9回	9. Bullet Train Tickets						
第10回	10. Taking a Taxi						
第11回	11. Sightseeing						
第12回	12. City Tours in Tokyo						
第13回	復習:Unit1 - Unit6						
第14回	復習:Unit7 - Unit12						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
ENGLISH FOR TOURISM - ベーシック観光英語(三修社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		観光外国語Ⅰ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	髙谷 俊祐						
到達目標							
観光英語検定試験3級合格							
講義概要							
海外から日本へ訪れる訪日外国人観光客は年々増加しており、外国人旅行者と接する機会が広がっています。また旅行業や観光業、小売業を目指す学生においても、英語で接遇する機会は今後益々増えていく事が予想されます。本講義では観光英語検定3級相当の書籍を使用し、観光、旅行のみならずサービス業に従事する際に必要な接遇英語を学習します。							
学修成果							
業界専門用語並びに接遇に必要な英語を使用する事が出来る							
事前学習							
各ユニットで必要な語彙を学習する							
事後学習							
学習した語彙を復習すると共に会話文の音読練習を行う							
授業計画							
第1回	Unit1: Travel						
第2回	Unit2: Jobs and people						
第3回	Unit3: Getting on the Plane						
第4回	Unit4: At the Immigration and Customs						
第5回	Unit5: At the Airport						
第6回	Unit6: Hotel (Accommodations)						
第7回	Unit7: Restaurant (Breakfast and Fast Food)						
第8回	Unit8: Sightseeing						
第9回	Unit9: Shopping						
第10回	Unit10: Transportation						
第11回	Unit11: Problems and Complaints						
第12回	復習:Unit1 - Unit4						
第13回	復習:Unit5 - Unit8						
第14回	復習:Unit9 - Unit11						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
ENGLISH FOR TOURISM - ベーシック観光英語(三修社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		観光外国語Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高谷 俊祐						
到達目標							
観光英語検定試験3級合格 TOEIC L&Rテスト500点以上取得							
講義概要							
海外から日本へ訪れる訪日外国人観光客は年々増加しており、外国人旅行者と接する機会が広がっています。また旅行業や観光業、小売業を目指す学生においても、英語で接遇する機会は今後益々増えていく事が予想されます。本講義では観光英語検定3級相当の書籍を使用し、観光、旅行のみならずサービス業に従事する際に必要な接遇英語を学習します。また観光英語検定試験受験後においては、TOEIC L&Rテスト対策向けの講義を実施し、テストの概要及び対策方法について学ぶ。							
学修成果							
サービス業界全般に必要な業界専門用語並びに接遇に必要な英語を使用する事が出来る TOEIC L&Rテストの各パートの出題方法について理解し、自己学習する事が出来る							
事前学習							
各ユニットに必要な語彙を学習する							
事後学習							
学習した語彙を復習すると共に会話文の音読練習を行う							
授業計画							
第1回	観光英語検定試験模擬試験実施 日本の地理・文化について学習①						
第2回	観光英語検定試験模擬試験実施 日本の地理・文化について学習②						
第3回	観光英語検定試験模擬試験実施 日本の地理・文化について学習③						
第4回	観光英語検定試験模擬試験実施 日本の地理・文化について学習④						
第5回	TOEIC L&Rテスト概要について学習 各パート出題方法と対策について確認						
第6回	TOEIC L&Rテスト Part1模擬問題実施						
第7回	TOEIC L&Rテスト Part1模擬問題実施						
第8回	TOEIC L&Rテスト Part2模擬問題実施						
第9回	TOEIC L&Rテスト Part3模擬問題実施						
第10回	TOEIC L&Rテスト Part4模擬問題実施						
第11回	TOEIC L&Rテスト Part5模擬問題実施						
第12回	TOEIC L&Rテスト Part6模擬問題実施						
第13回	TOEIC L&Rテスト Part7模擬問題実施 - Single Passage問題・テキストメッセージ問題実施						
第14回	TOEIC L&Rテスト Part7模擬問題実施 - Multiple Passages問題実施						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
ENGLISH FOR TOURISM - ベーシック観光英語(三修社)							
参考書							
はじめてのTOEIC L&Rテスト全パート総合対策(アスク出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		課程演習 I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	白石一憲						
到達目標							
経営陣を監視するステークホルダーの役割責任とは何か？その中でも特に株主や社外取締役と経営陣の利害関係を把握した上で、企業統治の有効性と課題を理解できるようにする。							
講義概要							
2006年の商法改正で企業統治が法制化され、2015年にコーポレートガバナンス・コードが設定された。このように比較的新しい仕組み・制度であり、本講義では様々な事例を交えて、経営陣の暴走はなぜ起こるのか？企業としてどのように取り組むべきか、という基本的な考え方を学ぶ。							
学修成果							
就職活動を行う際に検討先の企業のコーポレートガバナンス体制を調べることで、その企業のガバナンス体制がどの程度しっかりしたものになっているかを判断することができるようになる。							
事前学習							
前回の授業内容を復習した上で次の授業に出席する							
事後学習							
不明点や疑問などを整理し次の授業で質問・確認する							
授業計画							
第1回	「企業統治論概要」 ステークホルダーとは誰か？その役割責任は何か？						
第2回	「企業を支配するのは誰か？」 株主支配論、経営者支配論、金融支配論の論点について						
第3回	「企業の不祥事Ⅰ」 東芝の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？						
第4回	「モラルハザード」 株主と経営陣の利害関係の対立について						
第5回	「エージェンシー理論」 モラルハザードが起きる要因は何か？						
第6回	「前半講義の振り返り」 これまでの講義内容のまとめ（中間試験に向けた準備）						
第7回	「中間テスト」 第1回～第5回の講義内容の理解度を確認する						
第8回	「リスクマネジメント」 モラルハザードに対するリスクマネジメントとは						
第9回	「企業の不祥事Ⅱ」 日産自動車の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？						
第10回	「上場企業のガバナンス体制」 ガバナンスコードと上場について						
第11回	「非上場企業のガバナンス体制」 非上場企業のガバナンス体制とその効果について						
第12回	「海外のコーポレートガバナンス①」 アメリカ・ドイツ・北欧諸国のガバナンス体制						
第13回	「海外のコーポレートガバナンス②」 韓国・中国のガバナンス体制						
第14回	「これまでの講義内容のまとめ」 中間テスト以降の講義内容の振り返り						
第15回	「期末試験」 企業統治の実際と課題に関する理解度を確認する						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60	期末テストの点数				
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40	中間テストの理解度、授業の参加度、出席率				
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
新聞、ビジネス雑誌などから適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	白石一憲						
到達目標							
実際に日本企業で働く際に、どのような言動がコンプライアンス違反になるのか、自分自身がコンプライアンス違反を起こさないようにするために、どのような言動に注意すべきか？を理解できるようになる。							
講義概要							
企業の暴走を防ぐためには経営陣に対する監督強化だけでなく、そこで働く従業員の法令やルールの遵守を強化することも非常に重要となってくる。そこで企業統治論の一環として企業運営に関わる主要な法令の理解と、コンプライアンス違反事例を通して企業組織の基本的な対応を学ぶ。							
学修成果							
実際に日本企業で働く際に、自分自身がコンプライアンスを遵守した働き方ができるようになる。また上司や周りの同僚のコンプライアンス違反を発見した場合、自分自身はどのような行動を起こすべきか？判断できるようになる。							
事前学習							
前回の授業内容を復習した上で次回の授業に出席する							
事後学習							
不明点や疑問などを整理し次回の授業で質問・確認する							
授業計画							
第1回	「コンプライアンスの概要」 なぜ人は不正に走るのか？						
第2回	「労働法」 36協定や過労死ラインの理解と解雇のルール						
第3回	「パワハラ・セクハラ」 パワハラ・セクハラの定義と実例						
第4回	「不正競争防止法」 燃費偽装やリコール隠しの背景とその実例						
第5回	「独占禁止法」 カルテル・談合の禁止理由とその実例						
第6回	「前半講義の振り返り」 これまでの講義内容のまとめ（中間試験に向けた準備）						
第7回	「中間テスト」 第1回～第5回の講義内容の理解度を確認する						
第8回	「知的財産法①」 産業財産権の種類とそれぞれの実例						
第9回	「知的財産法②」 著作権の種類とそれぞれの実例						
第10回	「金融商品取引法①」 インサイダー取引や虚偽記載について						
第11回	「金融商品取引法②」 企業の法律違反による業績悪化とその後の再生について						
第12回	「個人情報保護法」 個人情報の定義と情報漏えいの実例						
第13回	「海外のコンプライアンス違反」 欧米やアジアのコンプライアンス状況について						
第14回	「これまでの講義内容のまとめ」 中間テスト以降の講義内容の振り返り						
第15回	「期末試験」 コンプライアンスの実践と課題に関する理解度を確認する						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	期末テストの点数				
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40	中間テストの理解度、授業の参加度、出席率				
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
新聞、ビジネス雑誌などから適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	嵐 洋平						
到達目標							
①BJTテストで、高得点を獲得できる力の育成 ②総合的な日本語聴解力の向上を目指す。 ③ビジネス用語や表現に慣れる。 ④ビジネスでの接遇日本語表現に慣れる。							
講義概要							
BJTビジネス日本語能力テスト対策を実施する。BJTの中でも特に聴読解・聴解分野対策に力を入れる。まずは、BJT特有の聴読解・聴解の問題形式に慣れてもらい、問題演習を重ねることで、BJT聴読解・聴解分野への問題対応力を育成、高得点獲得を目指す。							
学修成果							
ビジネスシーンで必要とされる接遇表現、聴解力、用語等の総合的な能力を有し、BJTビジネス日本語能力テストでの高得点の取得ができる人材になる							
事前学習							
事前課題演習							
事後学習							
演習問題の解き直し							
授業計画							
第1回	オリエンテーション 講義目的・進め方、求められる学習姿勢について						
第2回	実践演習(1) BJTビジネス日本語能力テスト テスト演習						
第3回	実践演習(1) BJTビジネス日本語能力テスト 解答解説						
第4回	実践演習(2) BJTビジネス日本語能力テスト テスト演習						
第5回	実践演習(2) BJTビジネス日本語能力テスト 解答解説						
第6回	BJT対策(1) 聴解・聴読解 ①問題演習 ②解答解説						
第7回	BJT対策(2) 聴解・聴読解 ①問題演習 ②解答解説						
第8回	BJT対策(3) 聴解・聴読解 ①問題演習 ②解答解説						
第9回	BJT対策(4) 読解 ①問題演習 ②解答解説						
第10回	実践演習(3) BJTビジネス日本語能力テスト テスト演習						
第11回	実践演習(3) BJTビジネス日本語能力テスト 解答解説						
第12回	実践演習(4) BJTビジネス日本語能力テスト テスト演習						
第13回	実践演習(4) BJTビジネス日本語能力テスト 解答解説						
第14回	定期テストに向けての学習項目の総復習						
第15回	テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
参考書							
友松悦子 宮本淳 和栗雅子『どんなときどう使う日本語表現文型500 短文完成練習帳』アルク							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養コース					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	嵐 洋平						
到達目標							
歴史、文化を学ぶことで中国渡来の文化の流れを知るとともに現代に通じる教養を身につける。現代日本社会に存在する問題を通して、通念的な日本人観と語彙力を身につける							
講義概要							
本講義では、日本社会で就職し、生活していく中で欠かすことのできない一般常識と、日本語を使用してアウトプットできる力を養います。地理や歴史を学ぶことから文化と教養を、現代日本社会に内包する問題から社会性や語彙力を身につけます							
学修成果							
日本の文化や社会背景を学習することで、より日本と日本人に対する理解を深め、「言語知識」を実学的に「使える」技能として扱うことのできる人材になる							
事前学習							
講義資料の確認							
事後学習							
講義復習							
授業計画							
第1回	オリエンテーション 講義目的・進め方、求められる学習姿勢について						
第2回	日本の文様から読み解く① 渡来する事物のものの捉え方						
第3回	日本の文様から読み解く② 伝統的な文様にある歴史背景・宗教と芸能						
第4回	慣用句・由来と使い方① 平安時代から江戸時代前期編						
第5回	慣用句・由来と使い方② 江戸時代後期から昭和編						
第6回	ネットカルチャーと新語作成の原理 ネット文化からリテラシーまで						
第7回	日本の常識を変えた重大事件① これまでの日本社会						
第8回	日本の常識を変えた重大事件② 昭和の事件編						
第9回	日本の常識を変えた重大事件③ 平成の事件編						
第10回	クールジャパンと観光立国 今後の日本はどうなる						
第11回	ディスカッション：外国人の立場から見た日本の魅力を考える						
第12回	時事問題について知識を深める 日本からの観点と国外の観点の違い						
第13回	ディカッションと発表：時事問題を取り上げ意見を発表する						
第14回	定期テストの範囲の復習とまとめ						
第15回	テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
講義の中で適宜紹介							
参考書							
講義の中で適宜紹介							